

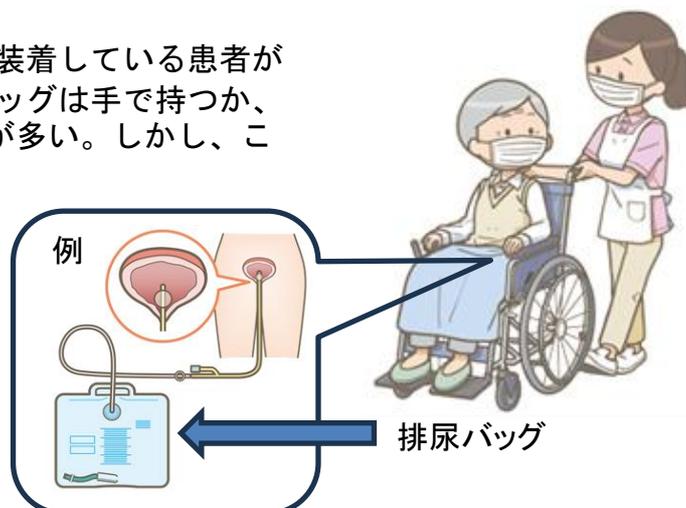
医療現場：看護部

## テーマ： 排液用バッグを車椅子に固定する器具

### ■ 背景

排液用バッグ（ドレーン、排尿バッグなど）を装着している患者が検査などの際に車椅子で移動する場合、排液用バッグは手で持つか、S字フックを用いて車椅子に引っ掛けて運ぶことが多い。しかし、この方法には以下のような課題が生じる。

- ・バッグに連結しているチューブの車輪への巻き込み  
あるいはタイヤで轢過してしまう
- ・バッグが床に接触する（引きずる）
- ・座面の隙間にチューブが挟まる（折れ曲がる）
- ・バッグの脱落



### ■ 課題解決のアイデア例

排液バッグから体内への排液の逆流を防ぐ必要があるため、排液バッグは必ず患者の留置部位より低い位置に保つ必要がある。

この前提で、例えば下記のアイデア事例が挙げられる。

- 簡単に排液用バッグをぶら下げることが出来る事。様々な種類の車椅子に対応できるように、バッグの位置調節が簡便に行える事（ユニバーサル性）
- 耐久性に優れる事
- 排液バッグにつながるチューブが垂れ下がらない事（簡単に束ねられるなど）
- 車輪にチューブを巻き込まない何らかの工夫
- 車輪で排液バッグを踏むことがない事
- なるべく安価である事
- 車椅子はJIS規格を準拠する必要があるため、付属品についてもこの点への留意が必要である

### ■ 市場性

急性期～慢性期を含む一般的な病棟では、例えば、入院患者の約10%前後が膀胱留置カテーテルを設置されている（≒排尿バッグを使用している）。また、老人施設（養護・特養・老健）での尿道留置カテーテル使用率は1.2%と低いですが、入所している人は72万人と報告されている。従って、このような製品の潜在的需要は大きいと予想される。

### ■ 看護部のホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>